

おりなす寄席

月亭方正 三遊亭圓歌

二人会



2026年 1月25日 日 14:00開演 (13:15開場)

八女市民会館 おりなす八女 ハーモニーホール

チケット

【全席指定】 一般 4,500円 おりなす友の会 4,000円

※未就学児は入場できません。

発売日

おりなす友の会先行／10月18日 土 一般／10月25日 土

※会館窓口は9:00から、web・電話予約は翌日10:00から受付。

プレイガイド

おりなす八女 (窓口・web・電話)

チケットぴあ (Pコード: 537-160)

ローソンチケット (Lコード: 82027)



座席が選べる
おりなす八女webサービス

主催：NPO法人おりなす八女文化事業振興会・八女市

三遊亭圓歌



1959（昭和34）年 鹿児島県生まれ。
1978（昭和53）年 三代目 三遊亭圓歌に入門。
1982（昭和57）年 ニツ目昇進、三遊亭きん歌となる。
1987（昭和62）年 真打昇進、初代 三遊亭歌之介となる。
1991（平成3）年 国立演芸場花形演芸大賞 金賞受賞。
2019（平成31）年 3月、四代目 三遊亭圓歌を襲名。

爆笑王として知られる落語界の重鎮、三代目三遊亭圓歌を師匠にもち、次世代の爆笑王候補として早くから期待が寄せられていた。噺家生活入門9年にして、18人抜きの大抜擢で真打昇進を果たし話題となった。古典新作の両方を器用にこなし、故郷では鹿児島弁の落語を披露するなど芸達者な落語家の一人。新作落語には、自身の少年時代や母親のこと、さらには時事ネタや健康ネタまで豊富な題材が盛り込まれ、田舎者のローカル感覚を生かした絶妙な話芸が観客の爆笑を誘う。「転失気」「替り目」などは独特の味わいを出し、出世作となった「寿の春」や高校時代の友人との爆笑の思い出を語る「田畑くん」、血液型をネタにした人気作「B型人間」など自作も多い。1990年には鹿児島県から「さつま大使」の任命を受け、地元や九州で特に高い人気を誇る。精力的に展開する独演会や落語会の他にも、映画『ひとつとべ』や『北辰斜にさすところ』に出演しており、幅広く活躍。目の前の客を笑わせることに全身全霊を傾ける、熱き噺家である。

2019年3月、四代目三遊亭圓歌を襲名。

月亭方正



1968（昭和43）年 兵庫県生まれ。
1991（平成3）年 コンビ「TEAM-0」として、ABCお笑い新人グランプリ最優秀新人賞を受賞。
1993（平成5）年 ビン芸人として活動開始。
2008（平成20）年 月亭八方から「月亭方正」を名乗ることを許可される。
2009（平成21）年 上方落語協会に入会。

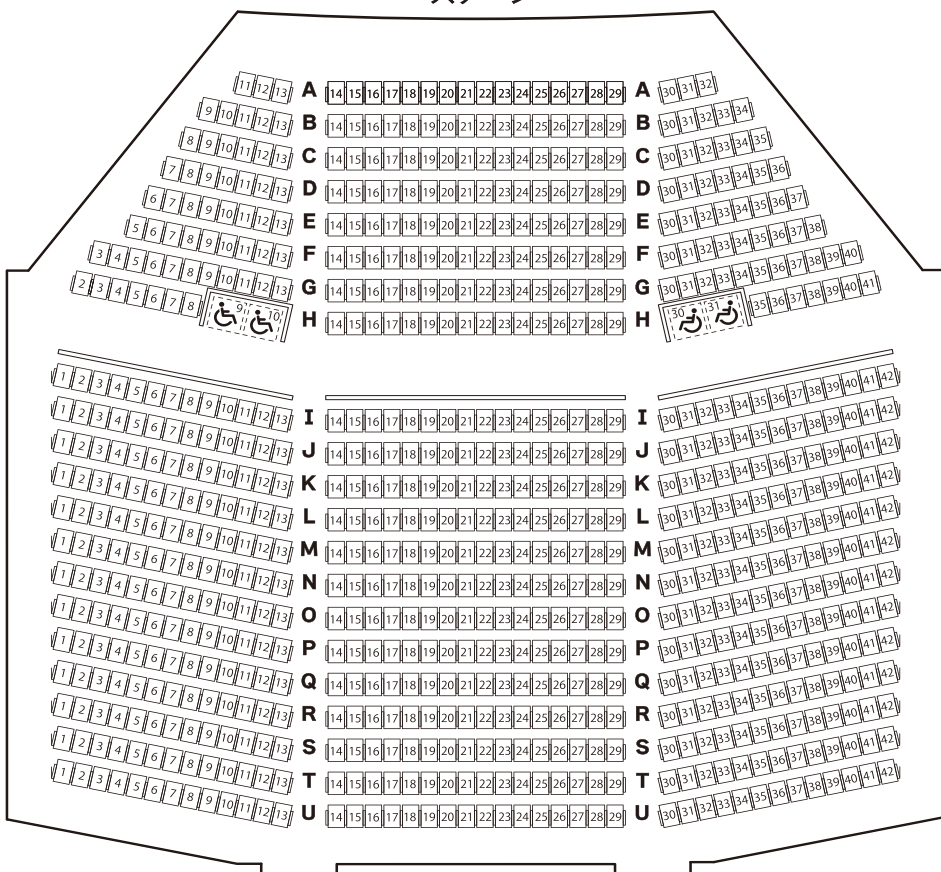
ダウンタウンファミリーの一員として、テレビ・ラジオで広く親しまれ、体を張った芸とギャグの“滑り芸”で唯一無二の笑いを確立。2008年には芸能生活20周年を記念した特番が企画され、初の写真集&エッセイ『奇跡』も発表。「落語家になる」という夢を40歳を前に本格始動。月亭八方を師に仰ぎ、内弟子経験はないながらも、師匠や兄弟子たちの指導のもと真摯に古典落語へと向き合い、休みの日には1日5～6時間にも及ぶ稽古を重ねるなど、ひたむきな姿勢を貫く。

同年、師匠より「月亭方正」の名を授かり、落語家としての第一歩を踏み出す。以降、「月亭会」や「月亭方正・十番勝負」、兄弟子・月亭八光との「二人会」などを定期的に開催し、着実に落語家としての歩みを進める。

2024年には『噺家生活15周年記念 月亭方正独演会』をなんばグランド花月、伝承ホール、ピレッジホールにて開催し、大成功を収める。

芸人としての感性と、人としての真摯さを武器に、落語という新たな舞台で独自の世界を切り拓く月亭方正。その姿勢に、多くのファンや落語関係者が注目と共感を寄せている。

ハーモニーホール 790席（車椅子席含む） ステージ



アクセス

【西 鉄】久留米駅から

○西鉄バスで45分「福島」下車、徒歩10分
(西鉄バスセンター発／八女方面行き)

【ＪＲ】羽犬塚駅から

○堀川バスで20分
「八女学院校前」下車、徒歩2分
○タクシーで15分

【新幹線】筑後船小屋駅から

○タクシーで20分

【高速道路】八女ICから

○車で10分

公演情報はこちら
おりなす八女HP



【問合せ】

八女市民会館おりなす八女

〒834-0031 福岡県八女市本町602-1

TEL : 0943-22-5332

(受付) 9:00～18:00 (※祝日除く月曜休館)